



第172回芥川賞・直木賞決定

追悼・いわむらかずおさん

第2回チンコロ博開催！ 作品募集中
本のちから(11)

絵本『ねこの結婚式』



昔は苦い飲みものだった！？ ～チョコレートの話～

2月14日はバレンタインデー。大切な人にチョコレート贈る日です。ミヒャエル・エンデの『モモ』には、登場人物のマイスター・ホラが主人公のモモにご馳走をする場面があります。そこでモモは「飲む」チョコレートがあることに感動します。しかし、チョコレートの長い歴史の中でも甘くミルキーな固形のチョコレートが生まれたのは、実はごく最近のことなのです。

チョコレートの原料となるカカオは赤道から南北20度以内、標高約300メートル以下の土地でしか育ちません。カカオの油は気温が低いと固まってしまうことから、気温が約16℃以上であること、雨が多いことが生育条件となります。また、野生で育つとは違って農園では害虫の天敵となる生きものが少なく、短期間でまん延する病気も発生しやすいため、栽培には大変な苦勞があります。

太い幹に咲くカカオの花には、まるでラグビーボールのような実があります。その硬い殻を割ると現れる白い果肉は、甘く、古くから食されてきました。この果肉に包まれるカカオ豆がチョコレートの原料です。ひとつの実に30～40個の豆が入っており、それでおよそ板チョコレート1枚ができます。しかし、熱帯ではカカオの油は固まらないため、チョコレートは長い間「飲みもの」であったのです。

チョコレートはメソアメリカ（現在のメキシコ南部、中央アメリカなどの地域）で生まれました。最古の痕跡は紀元前1500年～400年頃のオルメカ文明で、「カカオ（カカウ）」という言葉が遺されています。栽培の開始は4～9世紀頃のマヤ文明です。当時の遺跡からは「カカウ」と読める文字が刻まれた壺や、カカオが付着した壺が出土しています。マヤ人はカカオ豆を煎り、すりつぶしてトウモロコシ粉のペーストや香料を加えて薄めたものを飲んでいました。カカオには高い価値があり、マヤ族やその後のアステカ族はこの豆を貨幣としても用いていました。また、1502年にはコロンブスがマヤの交易品にカカオが積まれているのを目撃しているように、儀式的供物や貢納・交易品にもなっていました。王族や貴族、上流階級は疲労回復や滋養強壯の薬としても服用していました。

15世紀、アメリカ大陸にヨーロッパ人がやってきて、メソアメリカの国々を次々に滅ぼしていきます。16世紀にスペインがアステカ王国を滅ぼすと、植民地（新スペイン）となったこの地ではチョコレートを飲む習慣が大衆にも広

まります。その後、スペイン本国を経由し、ヨーロッパ各地にも伝わっていきます。当時のチョコレートはすりつぶして板状にしたカカオに熱い湯と砂糖を加えて飲むもので、この手軽さと持ち運びやすさが、海を越えて広がる重要な役割を果たしたのです。しかし輸入量はわずかで高価だったため、享受できたのはやはり上流階級に限られていました。18世紀には庶民にも普及しますが、遅れて入ってきた安価なコーヒーや紅茶の人気に押され、19世紀には徐々に飲まれなくなっていました。

しかし1828年にオランダのクランフト・バンホーテンがココアを発明すると、カカオは手軽に飲めるようになります。カカオ豆をすり潰したもの（カカオマス）を布でこし、豆の中の油（ココアバター）を半分ほど絞り出すと、さらさらした粉状にすることができたのです。この粉に熱いミルクと砂糖を加えて飲まれました。

しかし、これを混ぜて固形のチョコレートを作るのは至難の業でした。カカオマスの油分だけではうまく固まることができないのです。1847年、イギリスのジョセフ・フライがカカオマスと砂糖にココアバターを加えたところ、常温で固体となり、口の中の体温では溶けるダークチョコレートを作ることになりました。ただしこれは苦みが強く、人々はミルクを入れてまろやかにしようと工夫しました。しかし水と油は混ざりにくく、水分が多いミルクを入れるとチョコレートは分離してしまいます。1875年、スイスのダニエル・ピーターが、あらかじめミルクを乾燥させ細かい粉にしたものを混ぜることに成功し、ミルクチョコレートを生み出しました。こうして、苦い飲み物であったチョコレートは、長い時を経て現在の形にたどり着いたのです。

チョコレートには、紹介しきれなかった歴史や文化に関するエピソードがまだまだたくさんあります。ぜひ参考文献などを読んでみてください。（中嶋）

【参考文献】

『チョコレートの歴史』ソフィー・D・コウ／著、マイケル・D・コウ／著、樋口幸子／訳、河出書房新社、1999
『チョコレートの歴史物語』サラ・モス／著、アレクサンダー・バデノック／著、堤理華／訳、原書房、2013
『ひと粒のチョコレートに』佐藤清隆／文、junaida／絵、福音館書店、2023
日本チョコレート・ココア協会HP(<http://www.chocolate-cocoa.com>)



編集・発行／十日町情報館・NPO法人らいぶフォーラム

〒948-0072 十日町市西本町2丁目1番地1 TEL/025-750-5100 FAX/025-750-5103
「らいぶフォーラム」は、十日町情報館と図書館分室の図書館サービス業務を受託している市民による非営利団体です。2014年2月にNPO法人となりました。



ホームページ



Facebook



2月のテーマ図書

■決定！第172回 芥川賞・直木賞

令和6年度下半期の芥川賞・直木賞が発表されました。関連コーナーを2階新着コーナー向かいに展開中です。



【芥川龍之介賞】

安堂ホセ『D'TOPIA』（河出書房新社）

鈴木結生『ゲテはすべてを言った』（朝日新聞出版）

所蔵あり

【直木三十五賞】

伊与原新『藍を継ぐ海』（新潮社）

所蔵あり

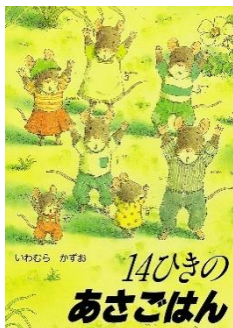
■追悼・いわむらかずおさん

人気絵本「14ひきのシリーズ」などの作者として知られる、絵本作家のいわむらかずおさん（本名：岩村和朗）が昨年12月19日に亡くなりました。85歳でした。

いわむらは1939年、東京都足立区生まれ。東京芸術大学工芸科を卒業後、31歳のときに初めての絵本を刊行。その後、豊かな自然を求めて栃木県益子町に移り住み、1983年に14匹のねずみの大家族を描いた「14ひきのひっこし」と「14ひきのあさごはん」（ともに童心社）を出版しました。全12作を数える「14ひきのシリーズ」はフランスや中国など海外でも翻訳され、国内外で1,500万部を超えるロングセラーとなりました。

1998年には現在の栃木県那珂川町に「いわむらかずお絵本の丘美術館」がオープンし、原画などの展示のほかイベントなどで子どもたちとの交流を続けてきました。

「家族」と「自然」を描き続けてきたいわむらさんの追悼コーナーを設けています。場所は1階カウンターの向かいです。



『14 ひきのあさごはん』
いわむらかずお／作
（童心社）

■児童向け

あまくておいしい

『おかしのかみさま』、『ぐるぐるガトーショコラ』など、おいしそうなおやつが出てくる本を紹介します。



ほっかぽか

『おんせんたまご』、『もふっ』など、寒い冬をあたためてくれるような本を紹介します。

■一般向け

心と身体が喜ぶ本

『雪国89歳の郵便配達おばあちゃん』、『長生き足体操』など、心も体も元気になる本を紹介します。

2024年度文学賞受賞作

『バリ山行』、『ツミデミック』など、2024年度の文学賞受賞作などを中心に紹介します。

チンコロ作品大募集中！

第76回雪まつりにあわせて開催する「第2回チンコロ博」での展示作品を募集しています。世界にひとつだけのチンコロを、情報館に飾ってみませんか？



展示期間 2月15日(土)～23日(日)

展示場所 十日町情報館1階 スロープ前

募集定員 先着30組

申込方法 館内で配布している申込用紙に必要事項を記入し、2月9日(日)までに情報館までお持ちください。電話、FAXでもOKです。

出展数 個人／3点まで、家族・団体／5点まで

※個人と家族・団体等で重複して出展していただいても構いません。

搬入期間 2月11日(火・祝)～13日(木)

その他 ・チンコロ製作には米粉を使ってください。

※樹脂粘土等は不可

・作品は台紙(4.5cm×3cm程度)にのせてお持ちください

・展示終了後、作品はお返しいたしません。

☆お問い合わせは十日町情報館(Tel.025-750-5100)まで。



前回の様子



スタッフによる日々の声をお伝えします

ねえ、きいて その53

新潟県立万代島美術館で開催中の企画展、「谷川俊太郎 絵本★百貨展」に行ってきました。

昨年11月に亡くなられた詩人の谷川俊太郎さんは、生涯で200冊以上にも及ぶ絵本も作っていました。今回の企画展ではそのうち約20冊をピックアップし、さまざまな表現方法で展示することで、目、耳、全身で絵本の世界を体験できる不思議な空間を楽しむことができます。

私の好きな展示は、『もこ もこもこ』。部屋いっぱいのスクリーンに鮮やかな色彩の映像が映し出され、谷川さん自身による朗読にも引き込まれてうっとりします。『ここはおうち』もお気に入りの1冊です。きれいな絵に谷川さんの詩でステキな物語になっています。

みなさんも谷川さんの絵本の世界を楽しんでみませんか。開期は4月6日(日)までです。また、情報館2階でも谷川さんの追悼コーナーを設置しています。谷川さんが遺してくれた詩集や絵本を、ぜひお手に取ってご覧ください。(吉澤)



本のちから(11)

『てぶくろ』 エウゲーニー・M・ラチョフ／作、うちだりさこ／訳、福音館書店

雪が降り続く寒い冬、森の中でおじいさんとおとした片方のてぶくろにねずみが住みつきます。そこへ「私も入れて」と次々に現れる動物を「どうぞ」と受け入れていき、最後にはクマまでがやってきます。身の危険を感じるはずのおおかみやクマをも「仕方がない、まあいいでしょう…」と受け入れる動物たちは、なんと心の広いことでしょう。

毎年てぶくろが必要になるこの時期、幼児から低学年にこの本を読み聞かせています。「てぶくろの中にこんなに入れるのかな～」と子どもたちは面白がり、楽しそうに聴きいてくれます。

このお話はウクライナの民話です。戦争が始まってしまった今、改めて読み直すと、みんなで仲良く平和に暮らしたいという、ウクライナの人たちの切なる願いが込められて語り継がれてきたお話だったのだと気づき、はっとしました。

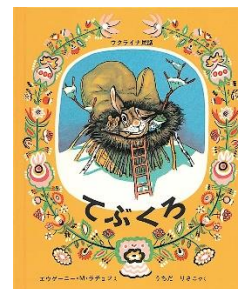
てぶくろには、いつのまにか窓や煙突まで造りつけられ、みんなで一緒に暮らしていこうとする気持ち

子ども読書活動推進コーディネーター
林 篤子

ちを感じます。狭いながらも肩を寄せ合い、寒い冬を暖かく過ごせる快適な居場所だったのです。「てぶくろ」は正に祖国の象徴であり、限りなく広がる、人の心の広さを表している気がします。

ウクライナの民話であることを伝えてから、高学年にも読んでみました。読み終わり、子どもたちの表情が神妙なことに気づきました。今までの「面白い」とは違う気持ちになったと、多くの子どもたちが言いました。「動物たちが、まるで色々な民族の代表のように思えた」、「最後、散らばって逃げていったのが悲しかった」という言葉が印象的でした。子どもたちの豊かな感性に改めて感動しながら。

ファンタジーには、物事の本質が隠されているのかもしれませんが。子どもから大人まで、この季節にぜひ読んでほしい絵本です。



スタッフのおすすめ本(川西分室・富井)

『ねこの結婚式』 安房直子／作、いもとようこ／絵、金の星社(川西分室 Eイ)

「ぼく」のところに、いつもは何色なのか見当もつかないほど汚れて傷だらけののらねこギンが、めずらしくさっぱりした姿で招待状を持ってきました。それは結婚式への招待でした。ギンの熱意に押された「ぼく」は、「わかったよ」と答えました。

当日、ガレージの地下にある秘密の宴会場に長いレースをひきずりながら入場してきた花嫁は、家ですやすやと眠っているはずの、「ぼく」が飼っている毛並みの美しい白ねこチイ子ではありませんか！びっくりしてチイ子を渡したくないと抵抗しますが、ギンとチイ子は旅に出るというのです。突然の停電で会場が真っ暗なあいだに、二人はねこの町へと旅立ってしまいました。さびしさでいっぱい「ぼく」のところに、後日はがきが届きました。

まるで娘を嫁がせる父親をみるような、ほっこりとした気持ちにさせてくれるぬくもりのある一冊です。ねこたちの豊かな表情にも注目してください。



新着資料紹介 12月21日～1月20日分

【一般図書】

- 『変わる縄文』今井しょうこ／著 KADOKAWA(縄文 210.2イ) ●『雪の名前』高橋順子／文 小学館(自然 451.6タ) ●『めんの本』有元葉子／著 文化学園文化出版局(料理研究 596ア) ●『ナタ1本ではじめる「里山林業」』津布久隆／著 農山漁村文化協会(産業 651ツ) ●『日本相撲史』横山健堂／著 富山房企画(芸スポ 788ヨ) ●『俺の文章修行』町田康／著 幻冬舎(言語 816マ) ●『秘仏の扉』永井紗耶子／著 文藝春秋(日文 913.6ナ) ●『華の薦重』吉川永青／著 集英社(松之山 913.6ヨ) ●『私のまんまで生きてきた。』平野レミ／著 ポプラ社(日文 914.6ヒ)

【児童図書】

- 『すすめ！雪国スノーファイター』池田菜津美／文 新日本出版社(児童一般 537イ) ●『カフェ・スノードーム』石井睦美／文 アリス館(児童日文 913イ) ●『ふゆのおばけずかん』齊藤洋／作 講談社(川西児童 913サ) ●『いまは、ここがぼくたちの家』バルバラ・ガヴリル／文 彩流社(児童外文 989ガ) ●『てんぐのはうちわ』いもとようこ／文・絵 金の星社(絵本 Eイ) ●『芝浜 上・下』川端誠／作 ロクリン社(絵本 Eカ) ●『ルービックの発明物語』カラ・クレイマー／絵 西村書店(絵本 Eク)

【地域資料】

- 『雪夢往来』木内昇／著 新潮社(地域・日文 N913.6キ)

第76回十日町雪まつり企画 第2回 チンコロ博

●あつまれ！チンコロ大集合！

みんながつくったチンコロが情報館に大集合！ 十日町に伝わる伝統的なチンコロから、独創性がある個性豊かな作品まで、雪国の縁起物“チンコロ”の世界を情報館で堪能できます！

展示期間／2月15日(土)～23日(日)

場 所／1階スロープ前

前回の様子

☆チンコロ募集中！

展示するチンコロを募集します。個人、家族、団体いずれもOK！ 詳しくは募集要項をご覧ください。



●なつかしの映像上映
なつかしい昭和時代。冬の十日町の生活を記録した貴重な映像を上映します。

●関連テーマ図書

(児童・一般)

チンコロをはじめ、十日町の冬の暮らしや風習に関する本を特集します。

※情報館ではチンコロの販売はありません。



【令和6年度 情報館主催 パソコン講習】

町内役員お助けコース

ワードでの文章や画像・図形を使った資料の作成、エクセルの基本計算、請求書の作成を学びます。

日 時／2月19日(水)～3月14日(金)

※水・金曜日(全8回)

午後7時～9時

対 象／文字入力、マウス操作ができる人

受講料／9,500円(テキスト代込み)

会 場／情報館1階 コンピュータ研修室

定 員／先着15人

申込み／専用チラシの申込用紙に記入してお持ちください。電話・FAXでもお申込みできます。



閉架書庫公開

2月23日(日)

午後2時～5時

貴重な資料、傷みやすい資料、利用が少なくなった資料などを保管している閉架書庫(へいかしょこ)を公開します。

申込みは当日1階カウンターでお願いします。



【今後の公開予定】3/16(日)

小千谷市ひと・まち・文化共創拠点

「ホントカ。」

十日町市民も利用登録をすることができます

◇登録方法

利用登録条件を確認できるもの(運転免許証、マイナンバーカード、社員証、学生証など)をお持ちのうえ、「ホントカ。」で登録手続きをお願いします。

小千谷市ひと・まち・文化拠点「ホントカ。」

●所 在 地／小千谷市本町1-13-35

●開館時間／午前9時～午後10時

●休 館 日／第2・第4火曜日、年末年始(12/29～1/3)

●電 話／0258-82-2724

※小千谷市民も十日町情報館の利用登録をすることができます。詳しくは各施設のホームページ等でご確認ください。

2月のおはなし会

◆情報館

1日(土)・8日(土)・15日(土)

／おはなしぴよぴよ(乳幼児)

22日(土)／おはなし「たまてばこ」(乳幼児)

※読み聞かせの会 どんぐりは、お休みです

◆川西分室

15日(土)／おはなしの会「ふきのとう」

(乳幼児～小学校3年生くらい)

◆松代分室

8日(土)／おはなしたんぽぽ(幼児～小学校低学年)



その他の催し

●十日町市書道協会 市民小品展

日時／2月14日(金)～17日(月)

※17日は午後3時まで

会場／2階 ギャラリー 入場／無料



●農業農村整備パネル展

日時／2月18日(火)～3月3日(月)

※18日は準備ができ次第開始、3日は正午まで

会場／2階 ギャラリー 入場／無料

資料保護のお願い

本やCD・DVDなどは室内と屋外の温度差により結露し、故障や劣化につながるおそれがあります。また雨や雪で濡れた本は、利用ができなくなる場合もあります。屋外での持ち運びには、バックや袋に入れるなどの保護をお願いします。

2月の開館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

開館時間・休館日

開館時間 午前9時～午後7時

休 館 日 第2・第4月曜日(当分の間)

特別整理期間、年末年始(12/29～1/3)

十日町情報館

〒948-0072 西本町二丁目1-1

電話／025-750-5100 FAX／025-750-5103